

下痢症とは？

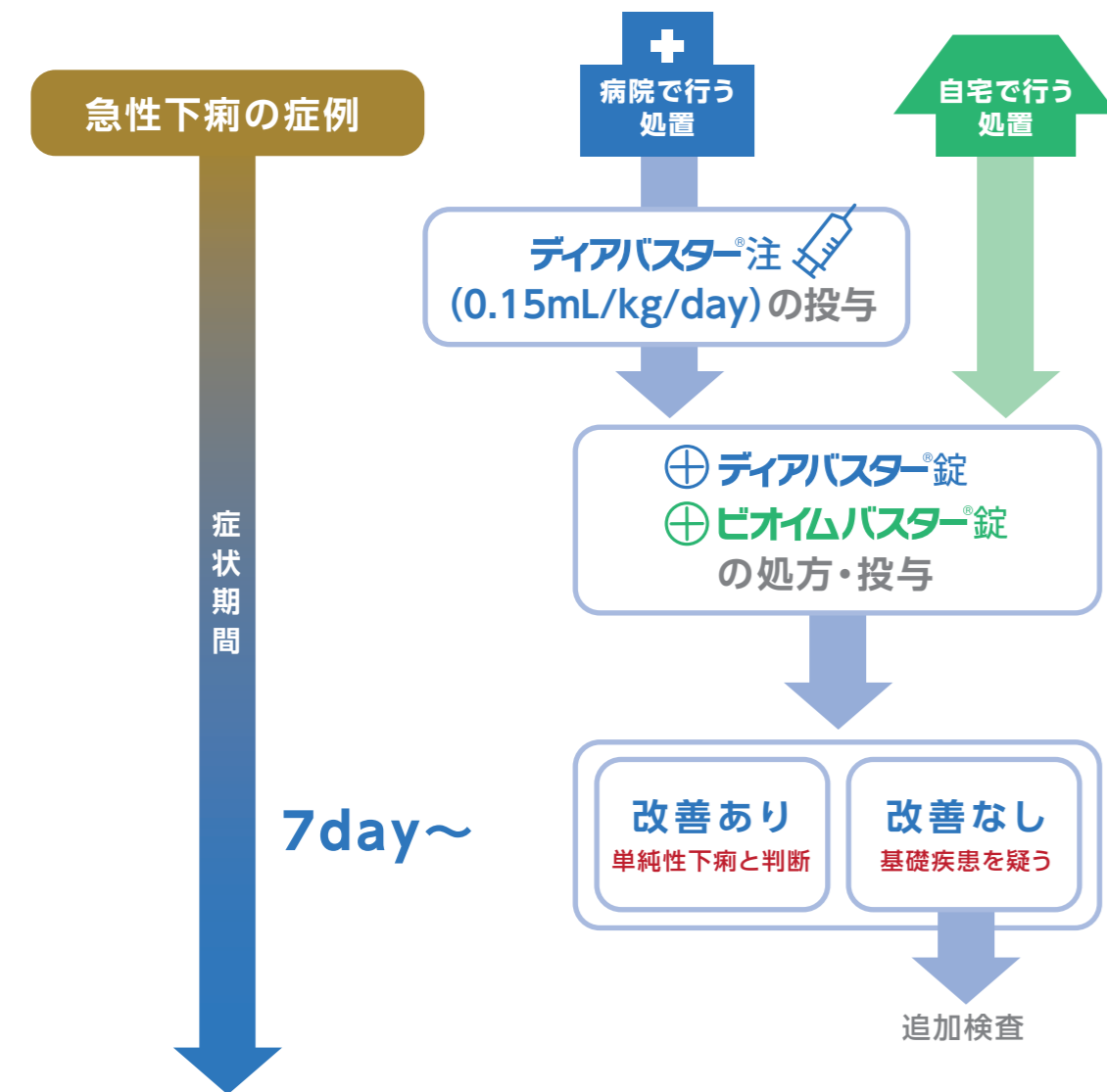
小腸や大腸の不調で便の水分量が増えると下痢になります。

下痢便は水分が多い順に、「水様便」、「泥状便」、「軟便」と呼ばれ、腸粘膜に炎症などが起こると、便に血液や粘膜が混ざったり、痛みが伴います。

下痢の原因は食べ物や食事の量に変化したことによる「消化不良」、環境の変化による「ストレス」、「細菌やウイルス、寄生虫などの感染症」、その他「アレルギーや薬の中毒、食中毒」など様々な原因があります。



バスターシリーズの急性下痢に対するアプローチ



バスターシリーズを使用することで下痢症をスクリーニングすることができます。

BUSTER SERIES

動物用医薬品 ディアバスター®注

【効能又は効果】
犬・猫：下痢

【成分及び分量】
本品100mL中
硫酸ペルベリン……………0.2g



動物用医薬品 ディアバスター®錠

【効能又は効果】
犬・猫：下痢における症状改善
腹痛、痙攣

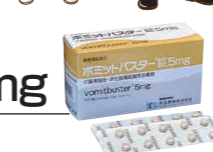
【成分及び分量】
本品1錠(270mg)中
タンニン酸ペルベリン…25.0mg
次硝酸ピスマス……………100.0mg
ゲンショウコ乾燥エキス…0.4mg
五倍子末……………5.0mg
ロートエキス散……………20.0mg



動物用医薬品 ボミットバスター®錠5mg

【効能又は効果】
犬：胃炎・腸炎等に伴う嘔吐・食欲不振・駆虫剤投与時の嘔吐
猫：胃炎・腸炎等に伴う嘔吐・食欲不振

【成分及び分量】
本品1錠(100mg)中
塩酸メクロプラミド……………5.0mg
(メクロプラミドとして3.84mg)



動物用医薬品 ビオムバスター®錠

【効能又は効果】
犬・猫：食欲不振、消化不良
単純性下痢

【成分及び分量】
本品1錠(200mg)中
有胞子性乳酸菌……………30.0mg
パンクレアチン……………60.0mg



ディアバスター®注 Q&A

- Q1 推奨投与量、投与経路および投与期間はありますか？
A1 0.15mL/kg/dayの単回皮下投与を推奨します。高用量投与の場合、まれに局所の炎症、嘔吐、下痢をおこすことがあるので注意してください。静脈注射する場合に速度が速すぎると、まれに振せん又は嘔吐することがあるので、注射速度はできるだけ遅くしてください。
- Q2 子犬や子猫には使用できますか？また、年齢制限はありますか？
A2 子犬や子猫にも使用できますが、2ヵ月齢以上の動物への投与を推奨します。
- Q3 妊娠・授乳中の動物には使用できますか？
A3 妊娠・授乳中の動物では安全性を確認していないため、使用は避けてください。代替薬として、ディアバスター錠の使用を推奨します。
- Q4 抗菌剤、制吐剤または駆虫薬と併用した例はありますか？
A4 犬猫の国内臨床試験にて、抗菌剤や制吐剤と併用した報告があります。犬猫の下痢の原因は細菌性、ウイルス性、寄生虫性など様々です。また、下痢以外に嘔吐も認められることがしばしばあります。本剤投与前にこれらについて検査し、適切な治療を実施することが重要です。
- Q5 他剤と混合して使用することはできますか？
A5 混合して使用することはできません。本剤は他剤と混合した場合、結晶が析出することがあります。
- Q6 連日投与する場合、どのくらいの期間使用できますか？
A6 犬猫の国内臨床試験にて、0.15mL/kg/day単回皮下投与で7日間連続投与した報告があります。7日間以上投与することも可能ですが、症状を慎重にモニタリングしながら投与してください。

販売元
製造販売業者(ディアバスター錠・ビオムバスター錠・ボミットバスター錠)
共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南 1-5-10

製造販売業者(ディアバスター注)
リケンベッツファーマ株式会社
埼玉県川口市元郷 4-1-8

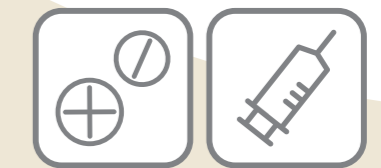
開発元
Veterinarian Medical Development CO.LTD
獣医医療開発株式会社
埼玉県さいたま市大宮区吾敷町1-133-1

多くの獣医師に選ばれている
消化器薬シェアNo.1ブランド



BUSTER SERIES

バスターシリーズ



ディアバスター®注



ディアバスター®錠



ビオムバスター®錠



ボミットバスター®錠5mg



下痢・嘔吐に対するバスターシリーズの作用機序

止瀉効果

ディアバスター®注

硫酸ペルベリン

腸内有害細菌に対して殺菌作用を示します。また、腸内でインドール、スカトールなどの有害アミンの生成酵素に拮抗し、腸内腐敗・発酵を抑制します。そのほか、**抗炎症作用、ぜん動運動抑制作用、胆汁分泌作用、腸内細菌叢を整え病原菌の増殖を抑える作用**などにより、すぐれた治療効果を発揮します。

制吐効果

ポミットバスター®錠 5mg

メトクロプラミド

嘔吐中枢のドパミンD₂受容体を遮断することにより、中枢性の制吐作用を示します。さらに、末梢では消化管の壁内神経叢において作用し、**上部消化管運動を促進**します。**中枢性制吐作用、上部消化管運動促進作用**の2つの作用を一剤で兼ね備えていることから、特に消化管運動障害に起因する嘔吐に対して有効です。



止瀉効果

ディアバスター®錠 ⊕

【収れん効果】

タンニン酸、ゲンノショウコ、五倍子末

炎症反応を抑制して組織障害を防ぎます。また、腸粘膜に付着し、粘膜が傷ついた炎症面を**収れん作用、止血作用**により修復します。

ペルベリン

胆汁分泌促進作用をもちます。**腸内細菌の異常増殖を抑制**し、腸内細菌叢の正常化を促進します。

次硝酸ビスマス

難溶性の皮膜をつくり、粘膜、潰瘍面を保護します。また、硫化水素と結合してガス刺激を和らげることにより、腸運動を抑制し、**収れん作用**を示します。

【鎮痛効果】

ロートエキス

抗コリン作用により、迷走神経、食物刺激、ガストリンやヒスタミンによる胃酸やペプシンの分泌を抑制します。また、軽度の局所麻酔作用を有するので、**鎮痛作用**があります。

整腸効果

ビオイムバスター®錠 ⊕

【整腸効果】

乳酸菌

- 有胞子性乳酸菌 (*Bacillus coagulans*)
- ビフィズス菌 (*Bifidobacterium longum*)
- アシドフィルス菌 (*Lactobacillus acidophilus*)
- フェカリス菌 (*Streptococcus faecalis*)

乳酸菌はビタミンやタンパクを合成したり、食物の消化・吸収を助けます。さらに、外来病原菌のバリアーとなって腸管感染を阻止し、**悪玉菌の増殖を抑制**します。また、有用菌の菌体成分は免疫機能を刺激し、宿主の健康を維持します。

パンクレアチン

パンクレアチンは、膵液中に含まれる多くの消化酵素を含み、胃や腸でデンプン、タンパク質、脂肪を分解し、消化をサポートします。腸粘膜の損傷や食物分解に関わる腸内細菌叢の乱れに対する**消化・吸収の補助**などが期待できます。

ディアバスター®注の犬猫における有効性

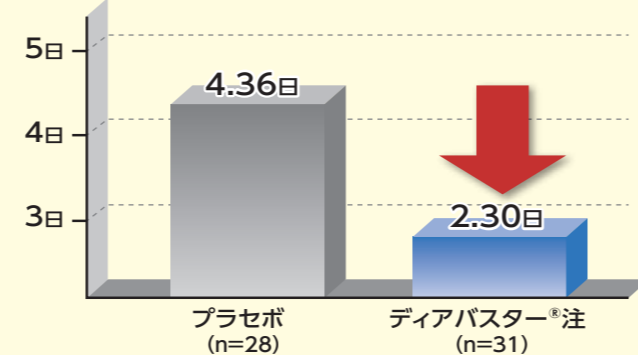


1. 犬の急性下痢症に対しディアバスター注を使用すると 治癒までの日数が短縮し、治癒率が改善しました

- 対象／急性下痢を主訴とする犬
- 方法／ディアバスター注を0.15mL/kg/dayで皮下投与し 第0病日(D0)とその後の最終観察日(~D6)の臨床徴候を評価した

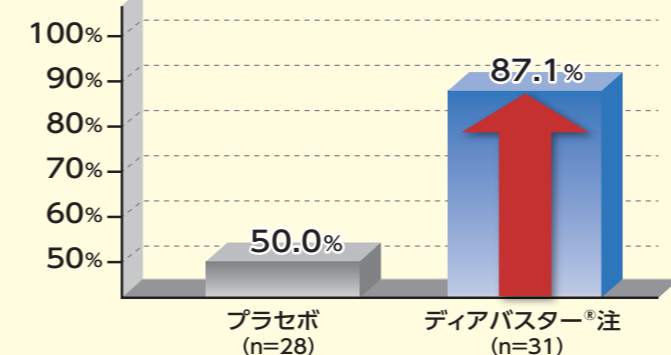
急性下痢における治癒までの日数

※完治と評価されるまでに要した日数



急性下痢における治癒率の比較

※改善した症例の割合



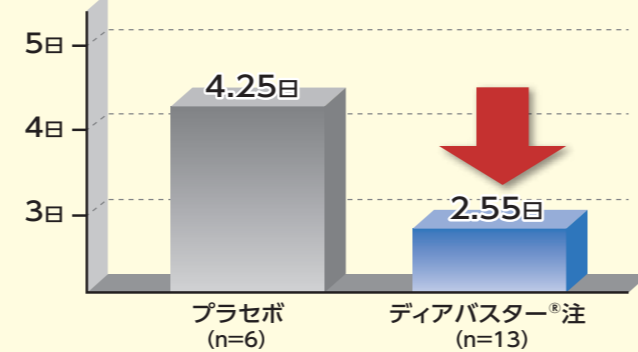
(第163回日本獣医学会学術集会より)

2. 猫の急性下痢症に対しディアバスター注を使用すると 治癒までの日数が短縮し、治癒率が改善しました

- 対象／急性下痢を主訴とする猫
- 方法／ディアバスター注を0.15mL/kg/dayで皮下投与し 第0病日(D0)とその後の最終観察日(~D6)の臨床徴候を評価した

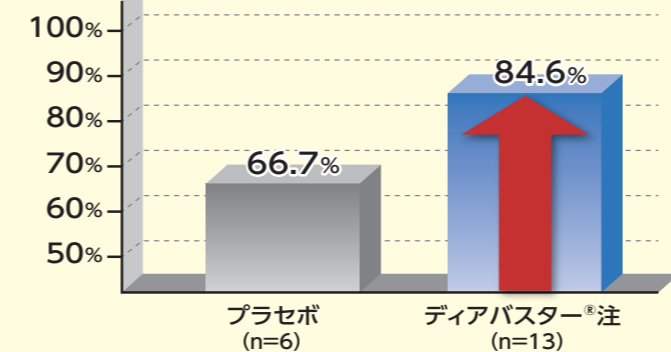
急性下痢における治癒までの日数

※完治と評価されるまでに要した日数



急性下痢における治癒率の比較

※改善した症例の割合



(獣医療開発(株)社内資料より)

ディアバスター®注の犬猫における安全性



1. 犬皮下投与 安全性試験

- 動物種、品種／犬、ビーグル
- 投与経路、期間／皮下、7日間



投与量 (mL/kg/day)

- 0.12(最低用量) 最低用量の3倍量まで、7日間連続投与により、
- 0.36(3倍量) **安全性が確認**されました。

2. 犬静脈投与 安全性試験

- 動物種、品種／犬、ビーグル
- 投与経路、期間／静脈、7日間



投与量 (mL/kg/day)

- 5.1 (最高用量) 最高用量投与により、嘔吐、下痢が認められたが、試験終了後、改善した。

3. 猫皮下投与 安全性試験

- 動物種、品種／猫、雑種
- 投与経路、期間／皮下、7日間



投与量 (mL/kg/day)

- 0.12(最低用量) 最低用量の3倍量まで、7日間連続投与により、
- 0.36(3倍量) **安全性が確認**されました。

4. 猫静脈投与 安全性試験

- 動物種、品種／猫、雑種
- 投与経路、期間／静脈、7日間



投与量 (mL/kg/day)

- 5.1 (最高用量) 最高用量投与により、嘔吐、下痢が認められたが、試験終了後、改善した。

高用量投与の場合、まれに、局所の炎症、嘔吐、下痢をおこすことがあるので注意してください

(獣医療開発(株)社内資料より)